

CHAIR FOR CORRECTING SPINE

Patent number: JP62127071
Publication date: 1987-06-09
Inventor: AMANO MIDORI
Applicant: AMANO MIDORI
Classification:
- **international:** A47C7/54; A61F5/01; A63B23/00
- **european:**
Application number: JP19850263883 19851126
Priority number(s): JP19850263883 19851126

Abstract not available for JP62127071

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑯ 公開特許公報 (A) 昭62-127071

⑯ Int.CI.

A 63 B 23/00
A 47 C 7/54
A 61 F 5/01

識別記号

庁内整理番号

6547-2C
7309-3B
D-6779-4C

⑯ 公開 昭和62年(1987)6月9日

審査請求 有 発明の数 1 (全4頁)

⑯ 発明の名称 脊椎矯正用椅子

⑯ 特願 昭60-263883

⑯ 出願 昭60(1985)11月26日

⑯ 発明者 天野みどり 鳴門市撫養町黒崎字松島番外14

⑯ 出願人 天野みどり 鳴門市撫養町黒崎字松島番外14

⑯ 代理人 弁理士 竹沢莊一

明細書

1. 発明の名称

脊椎矯正用椅子

2. 特許請求の範囲

座の後上部に背もたれを設けた椅子において、前記背もたれの両側部に、肘掛け部材を、前記背もたれの下位より前方に向けて延出する肘掛け位置と、該肘掛け位置より上位で、かつ背もたれより外側方向に向けて延出する腕掛け位置とに移動可能として設けたことを特徴とする脊椎矯正用椅子。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、通常の事務用椅子等としても使用することができる脊椎矯正用椅子に関するもの。

(従来の技術とその問題点)

脊椎矯正器具は種々提供されているが、従来のものは、ほとんどが矯正専用であるため、事務用等の一般の椅子として使用するのには不便であり、また高価である等の問題点があった。

(発明の目的)

本発明は、普段は事務用椅子等として使用することができ、かつ肘掛け部材を側方へ向けて移動させることにより、これに腕を掛け、脊椎矯正運動をすることができるようになった脊椎矯正用椅子により、上述のような従来の問題点を解決しようとするものである。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、座の後上部に背もたれを設けた椅子において、前記背もたれの両側部に、肘掛け部材を、前記背もたれの下位より前方に向けて延出する肘掛け位置と、該肘掛け位置より上位で、かつ背もたれより外側方向に向けて延出する腕掛け位置とに移動可能として設けたことを特徴としている。

(作用)

本発明によると、普段は、肘掛け部材を肘掛け位置に位置させておくことにより、通常の肘掛け付きの事務用椅子等として使用することができ、肘掛け部材を腕掛け位置に移動し、かつ着座状態で、両腕を肘かけ部材に掛け、上体を後方にそらせることにより、脊椎を矯正することができる。

とともに、胸筋の引張、背筋の圧縮等の作用を通じて、人体の筋肉疲労を回復することができる。

脊椎矯正運動が終った後は、腕掛け位置にある肘掛け部材を、元の肘掛け位置に戻しておけばよい。

【実施例】

以下、本発明の一実施例を、添付図面に基づいて説明する。

(1)は、4本の脚(2)をもってほぼ水平に支持された平面形が方形の座、(3)は、座(1)の後端より後方に延出した後、起立する左右1対の背杆(4)(4)をもって、座(1)の後上部に支持された背もたれである。

背もたれ(3)の両側部には、上下方向を向く支持筒(5)が、左右方向を向く止めねじ(6)をもってそれぞれ固定されている。

各支持筒(5)の上下の端部は、止めねじ(6)が貫通するようにした閉塞部材(7)(8)により、それぞれ閉塞されている。

各支持筒(5)には、前方に向かって開口し、か

つ支持筒(5)の下端から上部適所に至る上下方向の縦溝(9a)と、外側方に向かって開口し、かつ上端が縦溝(9a)の上端と等高をなし、上下方向の長さが縦溝(9a)より短い縦溝(9b)と、両縦溝(9a)(9b)の上端間を連結する水平な横溝(9c)とからなる逆L字状の案内溝(9)が穿設されている。

各支持筒(5)内には、円筒形の摺動杆(10)が、軸線方向に摺動可能で、かつ軸線まわりに回転可能として嵌合されている。

各摺動杆(10)の外周には、案内溝(9)を通って支持筒(5)より半径方向に水平に突出し、かつ先端部で肘掛け部材(11)を支持する支杆(12)の基部が固定されている。

かくして、左右の両肘掛け部材(11)は、摺動杆(10)が下方の閉塞部材(8)の上端に当接し、かつ支杆(12)が案内溝(9)における縦溝(9a)の下部を経て前方に突出することにより、常時は、第1図に実線で示すように、背もたれ(3)の下位より前方に向けて水平に突出する肘掛け位置に停止している。

この状態から、支杆(12)が縦溝(9a)に沿って上昇するように、肘掛け部材(11)、支杆(12)及び摺動杆(10)（以下、これらを肘掛け部材(11)等といふ。）を一体として持ち上げた後、横溝(9c)の部分で、肘掛け部材(11)等を、外方に向けて水平に回動させ、支杆(12)が縦溝(9b)内に進入した後、支杆(12)の下端が縦溝(9b)の下端に当接するまで、肘掛け部材(11)等を下降させることにより、肘掛け部材(11)を、第1図に想像線で、及び第3図に実線でそれぞれ示すように、上記肘掛け位置より上位で、かつ背もたれ(3)より外側方に向けて水平に突出する腕掛け位置とすることができる。

また両肘掛け部材(11)は、上述の場合と逆の操作で、すなわち一旦真上に持ち上げた後、先端を前方に向けて水平に回動し、その後、下降させることにより、腕掛け位置から肘掛け位置に戻すことができる。

したがって、この実施例によると、普段は、肘掛け部材(11)を肘掛け位置に位置させておくことにより、通常の肘掛け付きの事務用椅子等として

使用することができ、長時間着座して疲れた場合には、肘掛け部材(11)を腕掛け位置に移動した後、第3図に想像線で示すように、若座状態のまま、両腕を肘掛け部材(11)に上方より掛けて、上体を後方にそらせて、脊椎を矯正することができるとともに、胸筋の引張、背筋の圧縮等の作用を通じて、人体の上半身の筋肉疲労を回復することができる。

この場合、例えば、背もたれ(3)の前面に、指圧用の突起（図示略）等を設けておけば、これが脊椎を押圧して、指圧的効果を生じることができる。

脊椎矯正運動が終った後は、肘掛け部材(11)を、元の肘掛け位置に戻しておけばよい。

【変形例】

上述の実施例においては、案内溝(9)を穿設した支持筒(5)と、摺動杆(10)と、支杆(12)とをもって、肘掛け部材(11)を、肘掛け位置と腕掛け位置とに移動し得るように案内しているが、例えば、背もたれに、適宜の摺動体を上下方向に摺動自在

に装着し、この摺動体に、肘掛け部材を、前方を
向く位置と、外側方を向く位置とに水平回動可能
に螺着し、肘掛け部材を、肘掛け位置と腕掛け位
置とにおいてそれぞれロックし得る適宜のロック
装置を設けておいてもよい。

また、座を脚に対して回転自在としたり、又は脚を除去して、座椅子とする等の変形も可能である。

(発明の効果)

以上から明らかなように、本発明によると、普段は、肘掛け付きの事務用又は一般家具用の椅子等として使用することができるとともに、必要に応じて、肘掛け部材を移動させて、脊椎矯正運動を行うことができ、長時間着座するための椅子として最適である。

また、構造が簡単で、安価に製造できるという利点もある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例の斜視図、

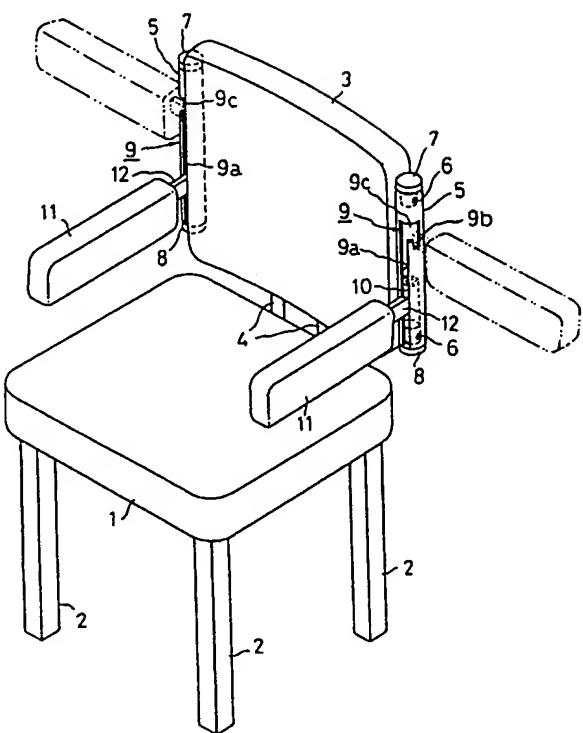
第2図は、同じく要部の分解斜視図、

第3図は、同じく脊椎矯正運動をするときの状態を示す側面図である。

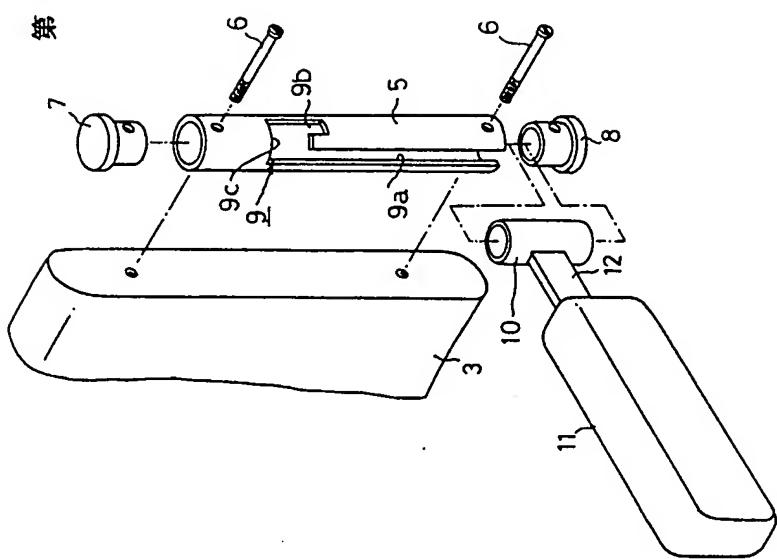
(1) 座	(2) 脚
(3) 背もたれ	(4) 背杆
(5) 支持筒	(6) 止めねじ
(7) (8) 閉塞部材	(9) 室内薄
(9a) (9b) 縦薄	(9c) 橫薄
(10) 摺動杆	(11) 肘掛け部材
(12) 支杆	

特許出願人代理人 弁理士 竹沢莊一

第 1 章



58



第3回

